

[成果情報名] モクズガニの放流効果の推定

[要 約] モクズガニは平成 15 年から種苗放流がはじまっているが、その経済的な放流効果は年間 26,488 千円と試算される

[部 署] 山形県内水面水産研究所・生産開発部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] モクズガニ、放流効果

---

### [背景・ねらい]

モクズガニについては、内水面漁業協同組合連合会の要望により、平成 16 年から漁業権魚種となり、種苗放流が開始されたが、これまで、その効果については検討されていないことから、経済的な放流効果について、「山形県の水産」をもとに取りまとめた。

### [成果の内容・特徴]

- 1 放流量について、平成 28 年度の水産振興協会における種苗生産の不調を除けば、県全体で 15,000 個体以上の放流を平成 16 年から継続して行っている（図 1）。
- 2 昭和 60 年から、令和元年までの平均漁獲量は県全体で 17,638kg、放流前の平均は 15,488kg、放流後は 20,190 kg、放流後の増加量は 4,702kg（130%）、最上川水系では、8,104kg、放流前の平均は 9,255kg、放流後は 6,869kg、と放流前に比べ、2,386 kg（74%）減少、一方、赤川では、7,948kg、放流前の平均は 5,589kg に対し、放流後は 10,750 kg と 5,161 kg（192%）の増加、月光川では、1,224 kg、放流前の平均は 205 kg、放流後は 2,434 kg と、2,229 kg（1,187%）の増加となっている（図 2）。
- 3 生産額について、県全体での平均は、29,840 千円、放流前の平均は 17,316 千円、放流後は 44,712 千円、放流前に比べ、27,396 千円（261%）の増加となっている（図 3）。
- 4 平均単価について、県全体での平均は、1,692 円/kg、放流前は 1,118 円/kg、放流後は 2,215 円/kg と、放流前に比べ、1,096 円/kg（198%）の増加となっている（図 3）。
- 5 放流効果について、種苗は 1 個体 55 円（税込み）であることから、年間の 16.5 千個体を放流する経費は 908 千円、放流後の生産額の増加分から差し引いて、現在、年間 26,488 千円の経済的な放流効果があると推定される。

### [成果の活用面・留意点]

- 1 最上川での漁獲量が減少しているが、漁業協同組合によれば、漁業者の高齢化によりカニを漁獲する組合員が亡くなり、操業そのものが減少していることによるもので、川にはたくさんモクズガニがいて、増えている。放流している魚種で唯一増えたのがモクズガニとの発言を多く聞くことから、放流効果が無いということでも、資源量が減少していることでもないと考えられる。
- 2 アユ、サクラマス等の基幹漁業の振興もちろん重要であり、それを促進するための技術開発に注力しなければならないが、しかし、衰退している内水面漁業の現状を回復させるためには、資源および単価が向上し、現在、漁獲金額が第 2 位であるモクズガニの資源量を有効活用することも内水面の振興策のひとつとなる（図 4）。
- 3 他県では、上海ガニの代替えとして、香港等へ活ガニ（5,000 円/kg 以上）として輸出されている。

[具体的なデータ]

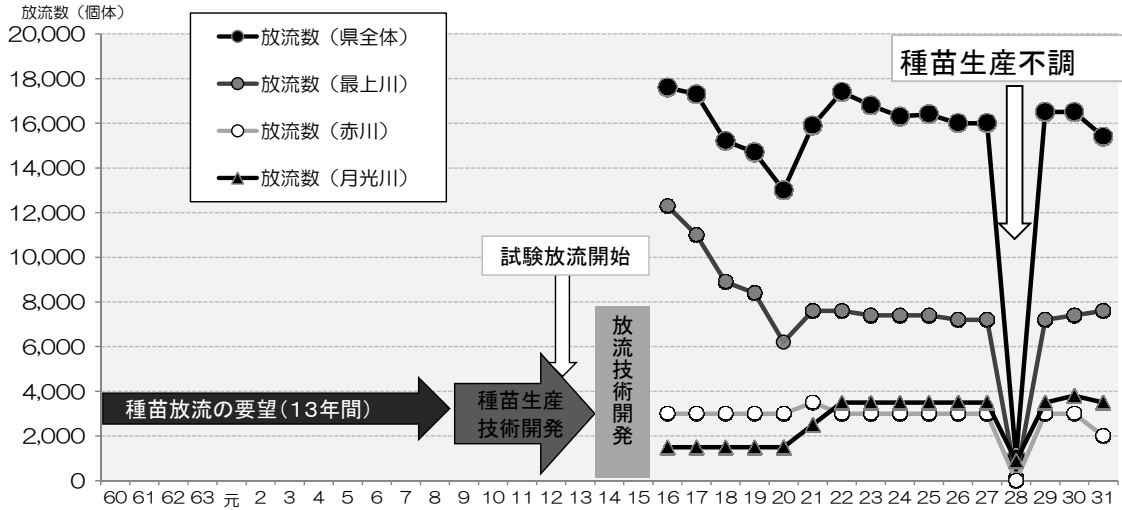


図1 内水面におけるモクズガニ放流量の推移

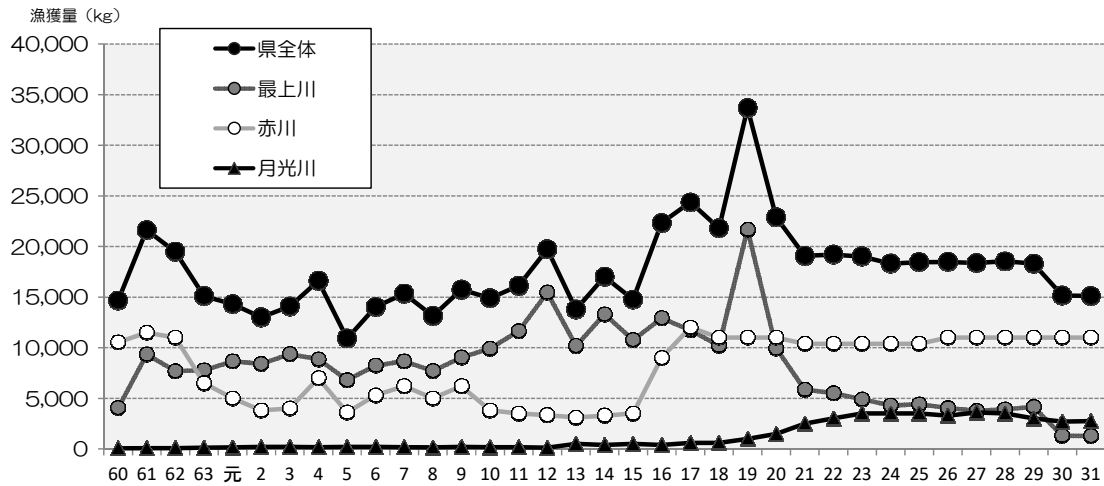


図2 内水面におけるモクズガニ漁獲量の推移

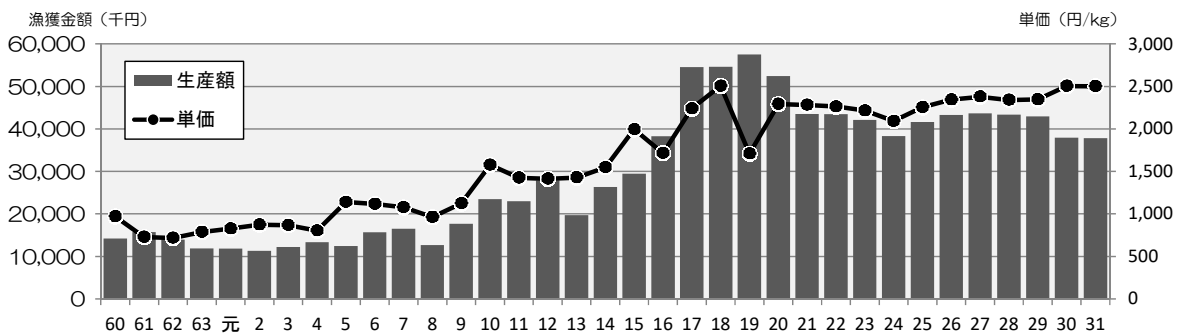


図3 内水面におけるモクズガニ生産額・単価の推移

[その他]

研究課題名：増養殖技術指導  
 予算区分：県単  
 研究期間：令和2年度（平成30～令和4年度）  
 研究担当者：本登 渉  
 発表論文等：なし

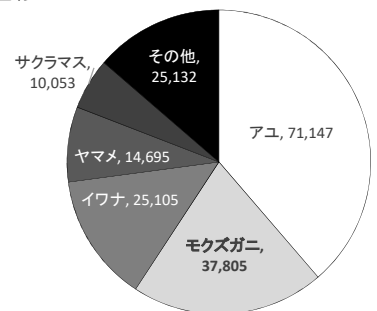


図4 令和元年度における魚種別内水面漁業生産額（千円）